

使おう !! 20 歳の受診券

— 福島県子宮頸がん検診における若齢者の受診状況から —

○ 羽野健汰 1) 佐藤奈美 1) 佐藤美賀子
1) 神尾淳子 1) 森村豊 1) 菅野薫
1) 添田周 1,2) 渡辺尚文 1,2) 藤森敬也
1,2)

1) 公益財団法人福島県保健衛生協会

2) 公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座

【 目的 】

わが国の子宮頸がん検診では、がん検診の受診促進とがんの早期発見、正しい健康意識の普及啓発を目的として、対象年齢に達した人に受診券を発行している。今回、今後の受診率向上に繋げるため、本県における若齢者の受診者数と受診率の動向等について調査したので報告する。

【 対 象 と 方 法 】

平成 20 ～ 26 年 度 に 実 施 し た 20 ～ 44 歳 の 子 宮 頸 がん 検 診 受 診 者 を 対 象 と し て 、 経 年 的 に 年 齢 階 級 別 の 受 診 率 ・ 検 診 初 回 率 の 推 移 を み た 。 年 齢 階 級 は 20 ～ 24 歳 ， 25 ～ 29 歳 ， 30 ～ 34 歳 ， 35 ～ 39 歳 ， 40 ～ 44 歳 の 5 グ ル ー プ と し た 。 ま た 、 要 精 検 率 と 精 検 結 果 状 況 に つ い て は 、 20 ～ 44 歳 と 45 歳 以 上 の 年 齢 層 で 比 較 検 討 し た 。 統 計 学 的 検 討 は 、 χ^2 検 定 を 用 い $P < 0.05$ を も っ て 有 意 差 あ り と し た 。

【 結 果 】

受 診 者 数 は 、 平 成 21 年 度 の 無 料 ク ー ポ ン 配 布 時 に 増 加 し 、 平 成 22 年 度 に は 最 多 の 30,446 人 と な っ た が 、 平 成 23 年 度 の 大 震 災 を 契 機 に 26,316 人 ま で 減 少 し 、 以 降 、 ほ ぼ 横 ば い 状 態 に あ る 。 受 診 率 も 同 様 で 、 平 成 22 年 度 の 52.8 % を ピ ー ク と し て 、 以 後 増 加 傾 向 は み ら れ ず 、 平 成 23 ， 24 ， 25 ， 26 年 度 は そ れ ぞ れ 51.6 % ， 50.2 % ， 47.6 % ， 47.9 % で あ っ た 。 年 齢 階 級 別

では、20～24歳は各年度23%前後で推移しており、25歳以上のグループと比較し、平成22年度からは有意に低かった（ $P < 0.05$ ）。検診初回率は、20～24歳が最も高く、平成22年度では最高の89.1%であったが、大震災以降は全てのグループで年々僅かだが減少傾向がみられ、20～24歳でも平成26年度には81.7%まで低下していた。一方、要精検率は平均1.75%（最少1.47%～最大2.04%）であり、45歳以上の平均0.31%と比較しても高率であった（ $P < 0.05$ ）。精検結果状況について、CIN3以上の治療病変検出率は平均0.27%（最少0.22%～最大0.31%）で、45歳以上の0.04%に比し有意に高かった（ $P < 0.05$ ）。

【まとめ】

子宮頸がん検診の受診率は死亡率や罹患率の低下に直接反映する。ゆえに、受診率向上への努力は重要な課題である。特に20～40歳代は妊娠可能な年齢層であり、早期発見・治

療により QOL が向上し、妊孕性も保持されるので、これら若齢者層の受診率向上は必須である。

若齢者層の受診者を増やす一手段として、自治体が配布している受診券の有効利用がある。特に検診開始年齢を含む 20 ～ 24 歳の受診率が低いことから、この年代への広報や健康教育は重要である。これと並行して、検診未受診者への通知を行うコール・リコールの実施や、子宮頸がん啓発活動による知識普及などを通し、継続した受診勧奨が受診率向上につながるよう努力せねばならない。

[1162 字]